J

YAMAHA

サブウーファー

NS-SW300
NS-SW200

JA

Advanced Y·S·T

取扱説明書

保証書別添付

ご使用前に本説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

目次

ADVANCED YAMAHA ACTIVE SERVO TECHNOLOGY II 6
Twisted Flare Port 6
本機でできること 7
付属品の確認 7
本機の置きかた 7
セッティング時の向きについて 7
各部の名称とはたらき 8
接続のしかた 10
1 アンプにサブウーファー出力端子がある場合 10
2 アンプにサブウーファー出力端子がない場合 12
入力1/出力端子へのスピーカーケーブルのつなぎかた 14
システム接続について 15
電源プラグの接続 15
オートスタンバイ機能 15
オートスタンバイ／感度スイッチの切り替え 15
音量バランスの調節 16
本機の周波数特性と調整例 18
困ったときは 19
仕様 21

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号

禁止を示す記号

行為を指示する記号

- **点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。**
- **不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。**
- **本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。**

警告 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

異常に気づいたら

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **電源コード／プラグが傷んだ場合**
- **機器から異臭、異音や煙が出た場合**
- **機器の内部に異物や水が入った場合**
- **使用中に音が出なくなった場合**
- **機器に亀裂、破損がある場合**

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

電源

電源コードが破損するようなことをしない。

- **ストーブなどの熱器具に近づけない**
- **無理に曲げたり、加工しない**
- **傷つけない**
- **重いものをのせない**

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。

必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

設置

必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

分解禁止

禁止

この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。

水に注意

禁止

- **浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。**
- **この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。**

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意

禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

取り扱い

禁止

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

感電や火災、または故障のおそれがあります。

注意 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。

必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。

禁止

この機器を設置する際は、放熱を妨げない。

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **通風孔(放熱用スリット)をふさがない。**
- **指定以外の方法でこの機器を設置しない。**
- **風通しの悪い狭いところへは押し込まない。**

機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になります。 本機の周囲に上20cm、左右20cm、背面20cm以上のスペースを確保してください。

禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。

故障の原因になります。

禁止

地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。

この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。

必ず実行

この機器を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行う。

この機器を1人で無理に持ち上げると、腰を傷めるおそれがあります。また、この機器が落下してけがや破損の原因になります。

必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

聴覚障害

禁止

大きな音量で長時間この機器を使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

必ず実行

- **ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。**
- **電源を入れたり切ったりする前に、必ずこの機器の音量（ボリューム）を最小にする。**

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に入れる。電源を切るときは、この機器を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

お手入れ

必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

取り扱い

禁止

このラベルが貼られている面に触れない。

使用中に熱くなることがあり、触るとやけどをするおそれがあります。

禁止

この機器のバスレフポート（側面の穴）に手や指を入れない。

けがの原因になります。

禁止

この機器のこの機器の通風孔（背面）や、バスレフポート（側面の穴）に金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、または故障の原因になります。

禁止

以下のことをしない。

- **この機器の上に乗る。**
- **この機器の上に重いものを載せる。**
- **この機器を重ねて置く。**
- **ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。**

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。

禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

禁止

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。

機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

注意 製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、お守りいただく内容です。

電源

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。[⏻]（スタンバイ / オン）で本機をオフ（スタンバイ）状態にしても微電流が流れています。

設置

テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。

直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

接続

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

取り扱い

この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。

機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

お手入れ

極端に温湿度が変化すると、この機器表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。

お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になります。

お知らせ

製品に搭載されている機能に関するお知らせ

この製品は、日本国内専用です。

JIS C 61000-3-2 適合品
この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

バスレフポートから空気が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。

本書の記載内容に関するお知らせ

本書は以下の方を対象とした取扱説明書です。
- 本機をお使いになる方

本書では注意事項などを以下のように分類しています。

警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容が記載されています。

注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容が記載されています。

お知らせ

使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。

本製品の銘板に関するお知らせ

機種名（品番)、製造番号（シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の背面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

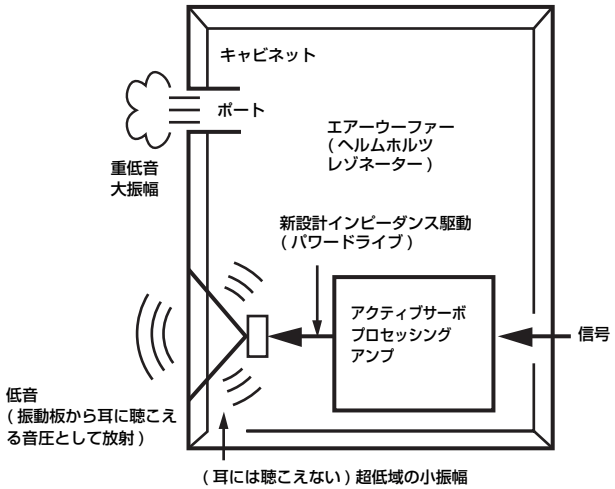
製造番号

ADVANCED YAMAHA ACTIVE SERVO TECHNOLOGY II

1988年、ヤマハは独自のYST(Yamaha Active Servo Technology)方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーをダイレクトに近い状態で電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、従来の負性駆動に定電流駆動を併用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。



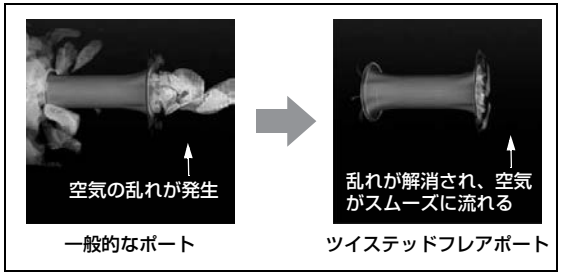
Twisted Flare Port

今日のバスレフスピーカーには、ヘルムホルツ共鳴を利用し低音再生能力を向上させる方式が用いられています。
しかしながら、このヘルムホルツ共鳴する周波数付近の低音再生時にはポートを通してスピーカーの内部と外部の空気が激しく出入りするため、ポート端部では空気の流れが乱れ、ノイズが発生する場合があります。

ポート、キャビネットはその寸法や形状によって決まった周波数で共鳴を起こします。
一方でポート端部の空気の流れの乱れは入力信号に含まれない広帯域の周波数成分が含まれます。

この広帯域の周波数成分の中でポート、キャビネットの共鳴周波数に一致した成分がそれらの音響共鳴を強く引き起こすため、このノイズが生じます。

ヤマハが開発したTwisted Flare Portは、ポート端に向かって広がり方を変え、更に「ひねり」を加えることでポート両端で生じる空気の流れの乱れを抑えてノイズの発生を防ぎます。
これにより、従来バスレフスピーカーの印象として言われていた、「濁った音」「風切り音がする」などの現象が大幅に減少し、クリアな低音の再生が可能となりました。



ノイズの原因となる、ポート端部の空気の乱れ

本機でできること

- **アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー Ⅱを搭載し、豊かな重低音を再生**
- **2 種類の入力端子で接続可能**

  本機はアンプのサブウーファー出力端子、またはスピーカー出力端子のどちらにでも接続が可能なので、組み合わせるオーディオシステムを選びません。
- **各種設定により常に最良の重低音を再生**

  HIGH CUT（ハイカット）ツマミと位相スイッチの設定により、本機と組み合わせて使用するスピーカーの間の音質バランスを適切に保ち、自然な音のつながりを確保することができます。
- **本機の電源を自動でオン／スタンバイ**

  オートスタンバイ／感度スイッチの設定により、アンプから信号が出ているかいないかを判別し、自動で電源のオン／スタンバイを切り替えます。電源スイッチを押す手間が省けます。
- **ヤマハ製品とシステム接続すると電源オン・オフの連動が可能**

  システム接続端子を装備したヤマハ製品とシステム接続ケーブルでつなぐと、接続機器の電源オン・オフに連動して本機の電源もオン・オフします。
- **スムーズな重低音を再生する Twisted（ツイステッド） Flare（フレア） Port（ポート） 搭載**

  捻りながら広がるフレア形状のポートにより、ポート端部付近に生じる空気の渦を拡散させ、スムーズな空気の流れを作ります。これにより、本来の入力信号に含まれないノイズを抑え、クリアな低域再生を実現します。
- **ソースに適した低音を再生（NS-SW300 のみ）**

  ソースのタイプに適した低音再生を選択できる B.A.S.S.（バス） モードスイッチを装備しています。

付属品の確認

付属品がすべてそろっているか、確認してください。

サブウーファー用
ピンケーブル (5m ×1 本)

システム接続ケーブル
(5m ×1 本)

本機の置きかた

音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。
したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、サブウーファーが 1 台でも超低音再生の効果を得られます。フロントスピーカーと同じように、L・R 2台設置することにより、さらに豊かな音場再生が可能になります。

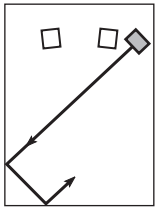
セッティング時の向きについて

図 A、図 B または図 C のように置くと効果的です。

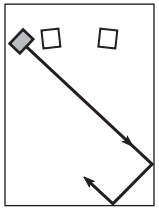
■ : サブウーファー　□ : フロントスピーカー

A サブウーファー 1 台の場合

フロントスピーカーの左右どちらかの外側に設置します。

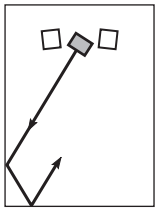


または

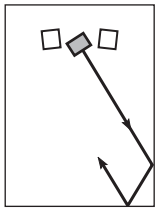


B 左右フロントスピーカーの中央に設置する場合

左右スピーカーの中央にセットする場合は、斜めにセットすると効果的です。

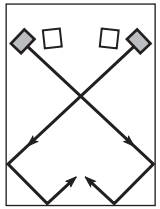


または



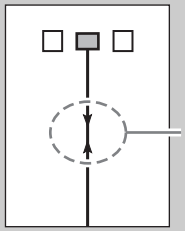
C サブウーファー 2台の場合

左右フロントスピーカーのそれぞれ外側に設置します。



お知らせ

下図 のように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい聞こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。これを避けるためには、斜めに設置すると効果的です。
（図 A、B、C）



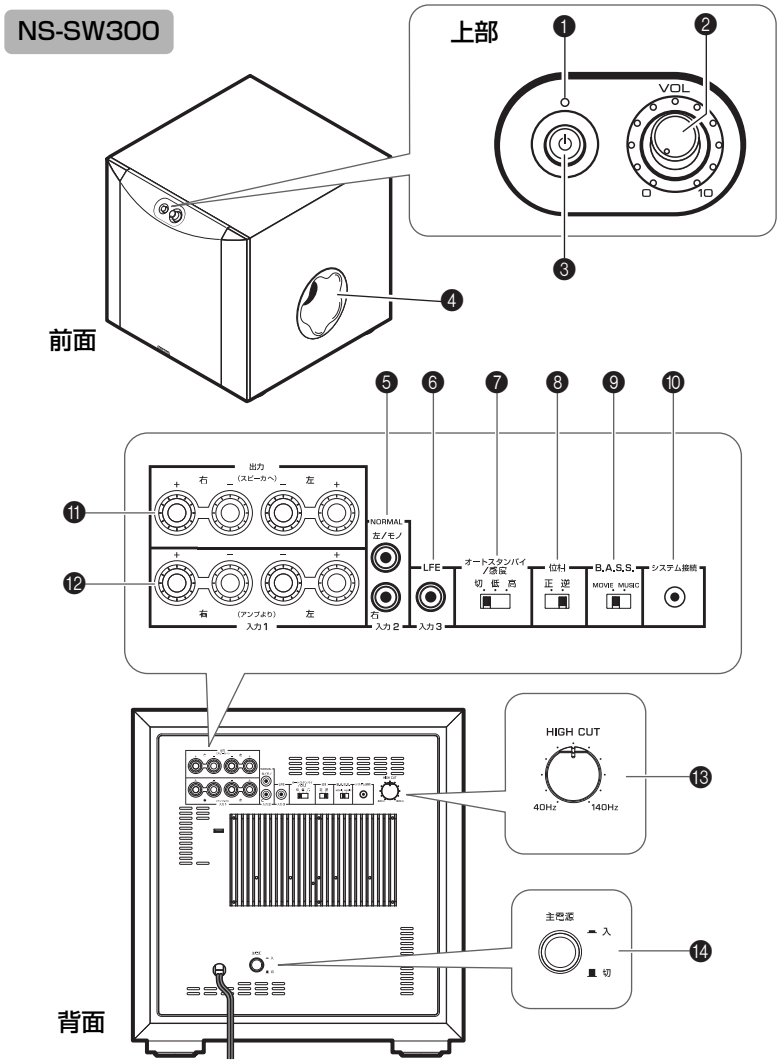
定在波の影響で低音が聞こえにくいことがあります。

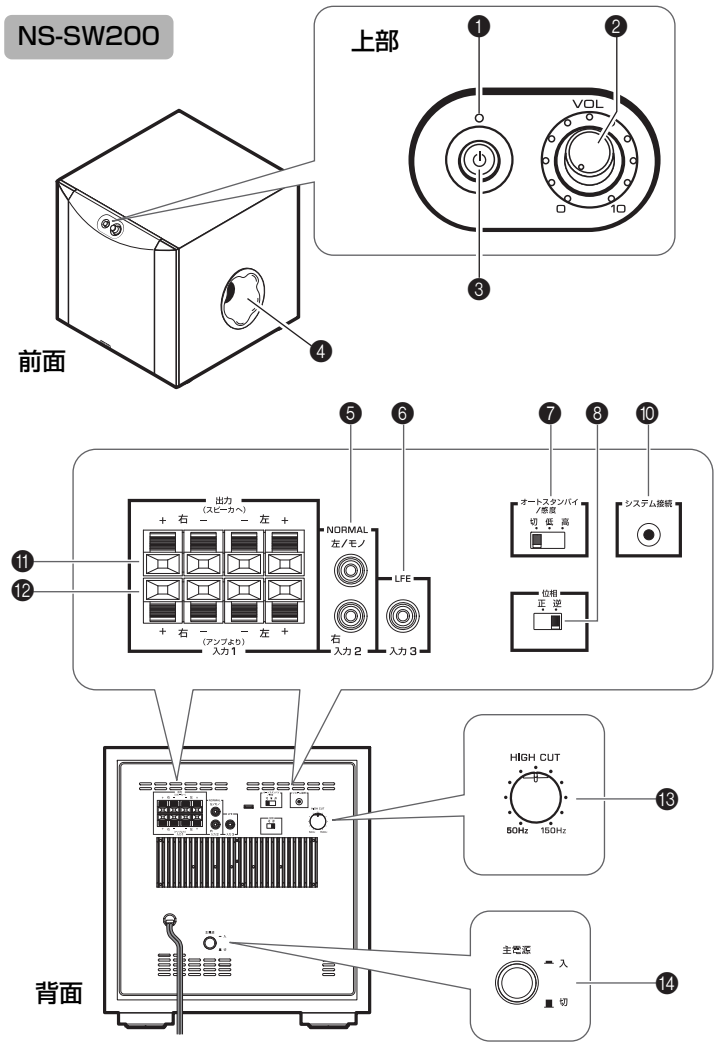
お知らせ

- 本機は防磁設計となっていますが、万一ブラウン管タイプのテレビの近くでご使用になり色ムラや雑音などが生じた時は、テレビと本機の距離を離してご使用ください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、サブウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合は、少し音量を下げてご使用ください。共振防止には、吸音効果の高い厚手のカーテンなどのご使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

各部の名称とはたらき

お買い上げ商品の品番は製品背面の表示でご確認ください。





❶ インジケーター

点灯（緑）：本機がオンの状態

点灯（赤）：オートスタンバイ機能がはたらいて、スタンバイになっている状態

消灯：　本機がオフの状態

❷ VOLUME（ボリューム）ツマミ（☞ 16 ページ）

本機の音量を調節するツマミです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

❸ STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）スイッチ

主電源スイッチが「入」の状態でスイッチを押すと、インジケーターが緑色に点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、インジケーターが消灯し、スタンバイ状態になります。

スタンバイ状態では、微量の電力を使用しています。

❹ ポート（☞ 6 ページ）

超低音域を出力します。

❺ 入力 2 NORMAL 端子（☞ 10 ページ）

アンプのサブウーファー端子またはアンプのライン出力端子（PRE OUT など）からの信号を入力する端子です。

❻ 入力 3 LFE 端子（☞ 11 ページ）

使用しているアンプ（またはレシーバーなど）が、サブウーファー出力用に信号の高域周波数をカットする機能を備えている場合に使用します。

ここから入力した信号には、ハイカット周波数ツマミ ⓭ の効果はかかりません。

❼ オートスタンバイ／感度スイッチ（☞ 15 ページ）

オートスタンバイ機能の入／切および感度を切り替えます。オートスタンバイ機能を使用する場合は、「低」または「高」にします。

オートスタンバイ機能を使用しないときは、スイッチを「切」のままにします。

お知らせ

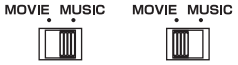
オートスタンバイ／感度スイッチを切り替えるときは、必ず主電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

❽ 位相スイッチ（☞ 16 ページ）

通常は「逆」側に設定しますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、「正」側の方がより良好な低音域を再生する場合があります。試聴を繰り返して、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。

❾ B.A.S.S.（バス）モードスイッチ（NS-SW300 のみ）（☞ 16 ページ）

再生するソースによってお好みの低域特性を選択します。「MUSIC」モードは音楽ソースを聴くときに、「MOVIE」モードは映画など、迫力のある音を楽しむときに選びます。



❿ システム接続端子（☞ 15 ページ）

システム接続ケーブルを接続する端子です。システム接続端子を装備したヤマハ製品と本機をシステム接続ケーブルでつなぐと接続機器の電源オン・オフに連動して、本機の電源もオン・オフします。

⓫ 出力（スピーカーへ）端子（☞ 12 ページ）

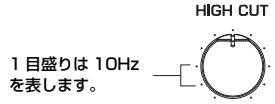
メインスピーカーを接続する端子です。入力 1（アンプより）端子に入力された信号をそのまま出力します。

⓬ 入力 1（アンプより）端子（☞ 12 ページ）

アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

⓭ HIGH CUT（ハイカット）周波数ツマミ（☞ 16 ページ）

カットする高域の周波数を調節するツマミです。組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調節します。



⓮ 主電源スイッチ

通常は「入」の状態で使用してください。長時間使用しない場合は「切」にしてください。

接続のしかた

接続のしかたには次の２とおりがあります。

1 アンプにサブウーファー出力端子がある場合（☞ 10 ～ 11 ページ）

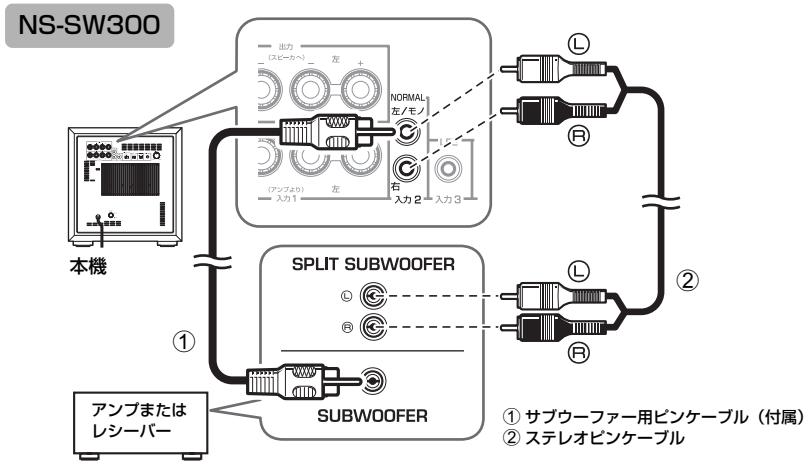
2 アンプにサブウーファー出力端子がない場合（☞ 12 ～ 13 ページ）

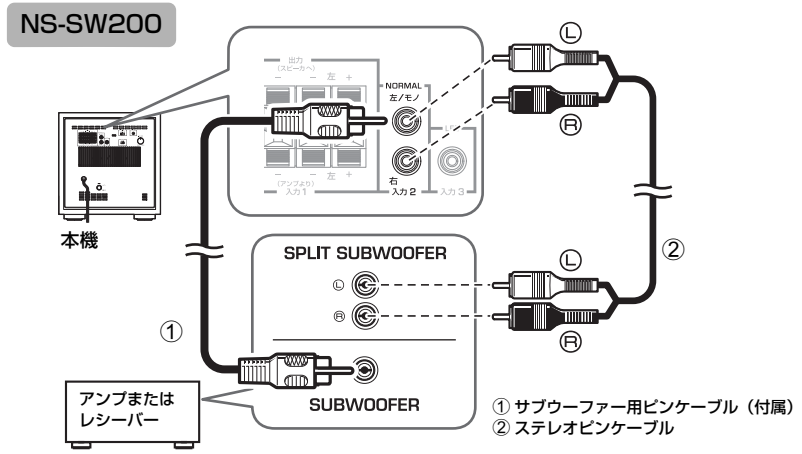
注意

- すべての接続が完了するまで、電源コードをコンセントに接続しないでください。
- 接続する機器 (アンプ、レシーバーなど) によっては接続方法や端子名が本書の説明と異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子の左、右 (L、R) や極性 (＋、－) を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

1 アンプにサブウーファー出力端子がある場合

本機を 1 台使用する場合の接続例





付属のサブウーファー用ピンケーブル（①）または**市販のステレオピンケーブル**（②）を使って接続します。

- 付属のサブウーファー用ピンケーブル（①）を、アンプのサブウーファー出力端子と本機背面の入力２「左 / モノ」端子に接続します。

または

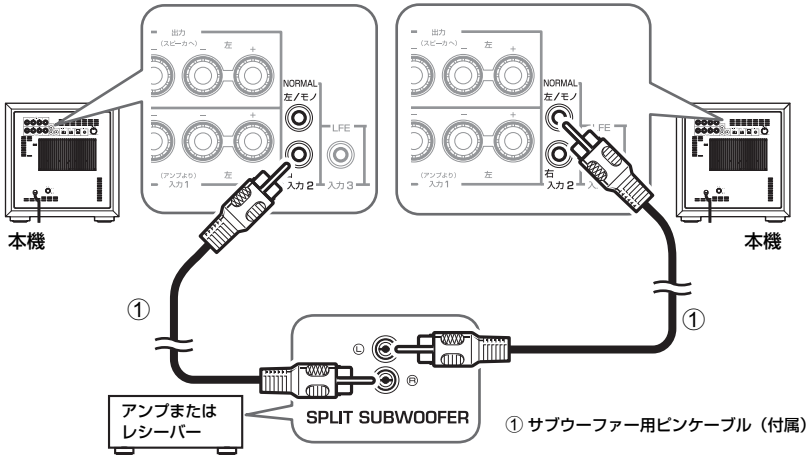
- アンプのサブウーファー出力端子が２チャンネル（L/R）の場合は、市販のステレオピンケーブル（②）を使い、アンプの L 端子と本機の入力２「左 / モノ」端子を、アンプの R 端子と本機の入力２「右」端子を接続します。

お知らせ

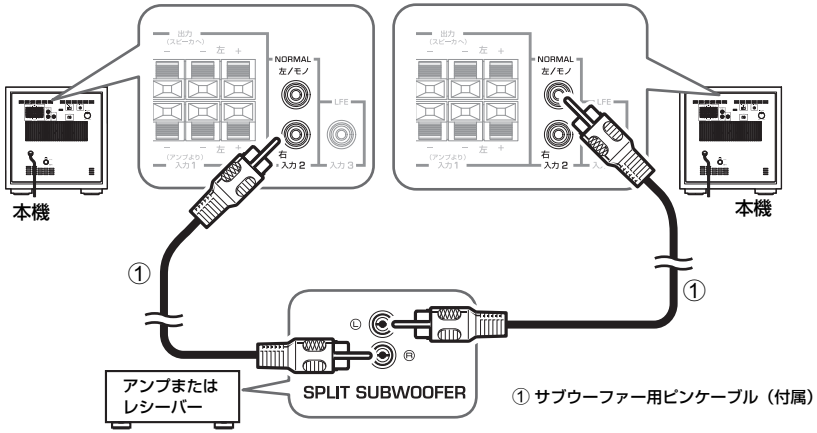
本機の入力２「左 / モノ」端子および「右」端子に入力した信号は出力（スピーカーへ）端子からは出力されません。

本機を 2 台使用する場合の接続例

NS-SW300



NS-SW200

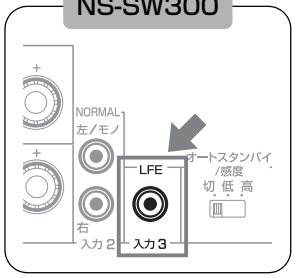


入力 3 LFE 端子に接続する場合

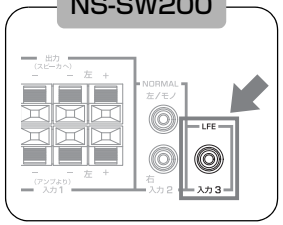
使用しているアンプ（またはレシーバーなど）が、サブウーファー出力用に、信号の高域周波数をカットする機能を備えている場合は、入力 3 LFE 側に接続してください。

本機の HIGH CUT（ハイカット） 回路がパスされて、信号経路が短くなり、より優れた音質が得られます。

NS-SW300



NS-SW200



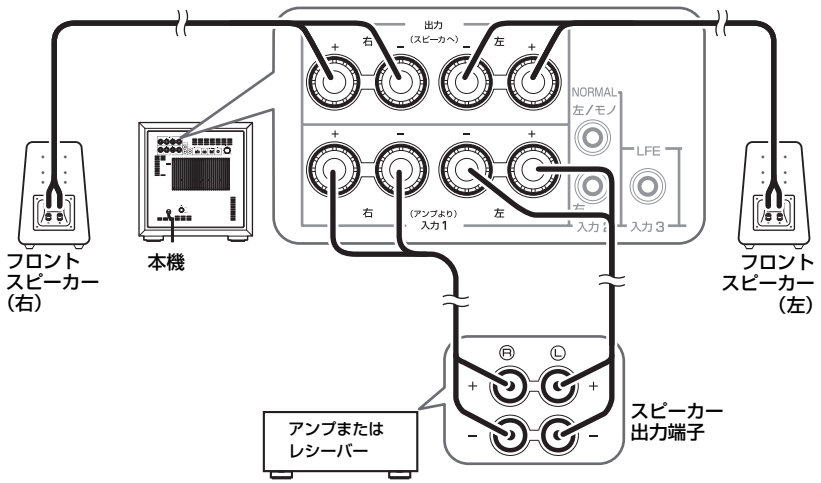
2 アンプにサブウーファー出力端子がない場合

■ アンプにスピーカー出力端子が 1 系統だけの場合

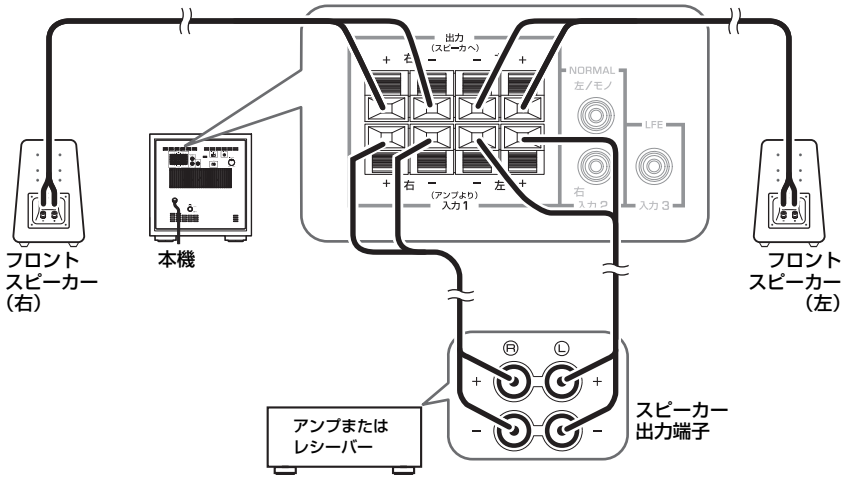
スピーカーケーブルを使用して、アンプのスピーカー出力端子と本機の入力 1（アンプより）端子を接続します。フロントスピーカーは本機の出力（スピーカーへ）端子に接続します。フロントスピーカーは本機を経由しての接続となりますが、音量や音質に影響を与えることはありません。

本機を 1 台使用する場合

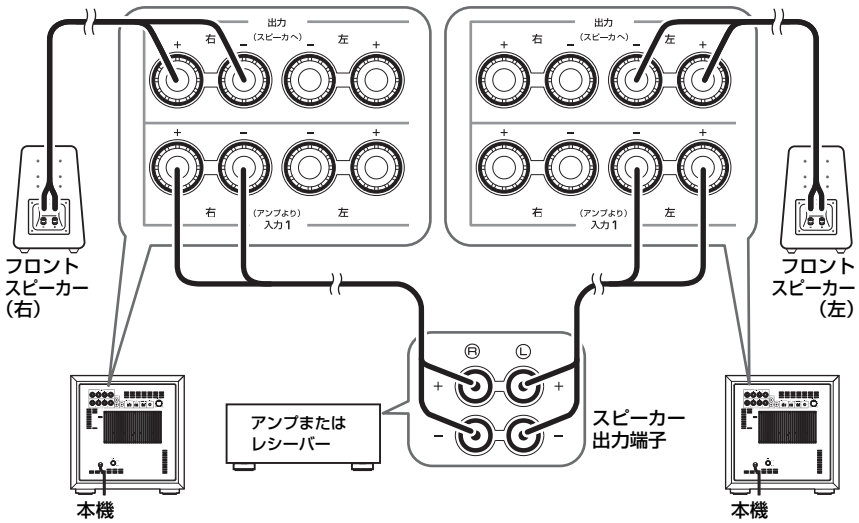
NS-SW300

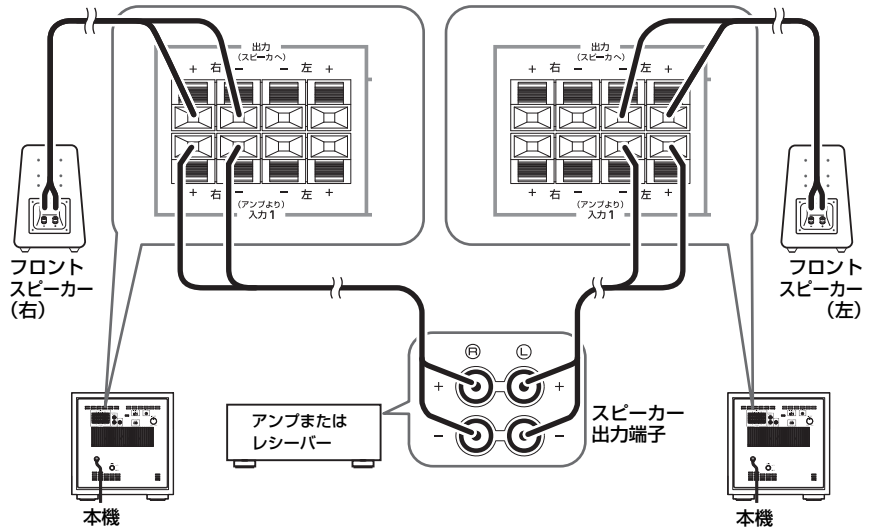


NS-SW200



本機を 2 台使用する場合





■ アンプにスピーカー出力端子が 2 系統 (A と B) あり、同時出力ができる場合

アンプ側でスピーカー出力端子 2 系統（A と B）から同時出力するように設定します。フロントスピーカーを A に、本機を B に接続します。

お知らせ

アンプのスピーカー出力端子が 2 系統あっても、2 系統から同時出力できない場合は、スピーカー出力端子が 1 系統の接続例（左図）を参照してください。

入力 1/ 出力端子へのスピーカーケーブルのつなぎかた

注意

スピーカーケーブルは手や足に引っかけないよう、壁や床などに固定してください。
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

注 意

- スピーカーケーブルはプラス (＋) とマイナス (ー) がショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音がでなかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。

お知らせ

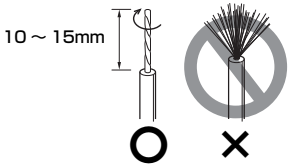
- スピーカーケーブルはプラス (＋) とマイナス (ー) を間違えないように接続してください。
- スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続します。ケーブルの絶縁部（被覆）まで差し込むと音は出ません。

■ 接続する前に

スピーカーケーブル先端の絶縁部 (被覆) をはがし、芯線がバラけてショートしないようにしっかりよじります。

NS-SW300　15mm くらいはがす

NS-SW200　10mm くらいはがす

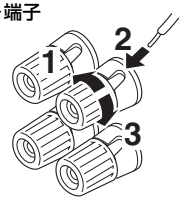


■ 接続手順

NS-SW300

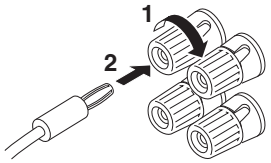
1. 図のように、端子を左に回してゆるめます。
2. スピーカーケーブルをスピーカー端子の穴に差し込みます。
3. 端子を右に回して締めつけます。
4. スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認します。

赤：＋端子
黒：－端子



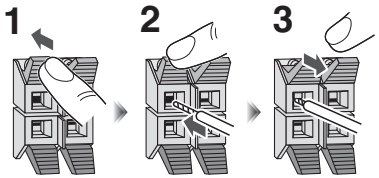
バナナプラグを接続する場合（NS-SW300のみ）

1. 端子を強く締めます。
2. バナナプラグを端子先端の穴に差し込みます。



NS-SW200

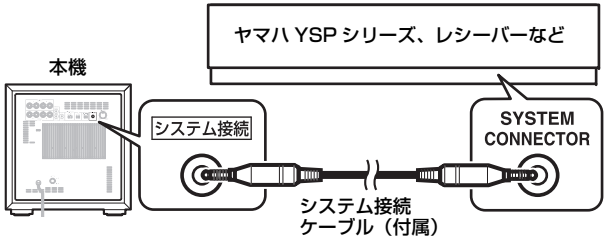
1. 図のようにレバーを押します。
2. レバーを押したまま、スピーカーケーブルをスピーカー端子の穴に差し込みます。
3. 指を離してレバーを戻します。
4. スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認します。



システム接続について

システム接続端子を装備したヤマハ製品(YSPシリーズ、レシーバーなど)と本機を、付属のシステム接続ケーブルでつなぐと接続機器の電源オン・オフに連動して、本機の電源もオン・オフします。

接続例



システム接続のはたらき

システム接続した機器の電源がオンになると、自動的に本機がオンになります。

*** インジケーター（緑）が点灯します。**

システム接続した機器の電源がオフになると、自動的に本機の電源がオフになります。

*** インジケーターが消灯します。**

お知らせ

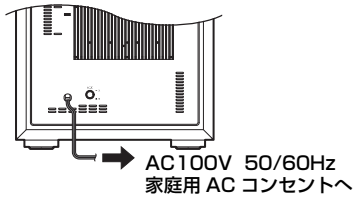
- 本機背面の主電源スイッチ（☞8 ページ）があらかじめ「入」の状態で、前面の STANDBY/ON スイッチ（☞8 ページ）が ON に設定されている時のみ働きます。
- システム接続による電源オン／オフのほうがオートスタンバイ機能よりも優先されます。
- 接続した機器の設定を変更する必要があるときは、接続した機器の取扱説明書をお読みください。

電源プラグの接続

電源プラグの接続は、本機とその他の機器の接続がすべて完了してから行います。

電源プラグはAC 100V, 50/60Hzの家庭用コンセントに接続してください。

接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。
お好みの向きで接続してください。



オートスタンバイ機能

オートスタンバイ機能は、使用中にアンプからの信号がなくなると自動的に本機をスタンバイ状態にし、再びアンプからの信号を検出すると自動的に本機をオンにする機能です。
オートスタンバイ機能は、オートスタンバイ／感度スイッチが「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらきます。(通常は「低」の位置にします。)

オートスタンバイ機能のはたらき

アンプからの入力信号*1がない状態が7～8分*2続くと、自動的に本機がスタンバイ状態になります。 *** インジケーターが緑から赤に変わります。**

アンプからの入力信号*1を受けると、自動的に本機がオンになります。

*** インジケーターが赤から緑に変わります。**

*1 オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、200Hz 以下の低音成分 (アクション映画の爆発音、ベース、バスドラムの音など) です。

*2 使用する環境によっては、周辺機器からのノイズなどの影響を受け、切り替わるまでの時間が変動することがあります。

お知らせ

本機背面の主電源スイッチ（☞8 ページ）があらかじめ「入」の状態で、前面の STANDBY/ON スイッチ（☞8 ページ）が ON に設定されている時のみ働きます。

オートスタンバイ／感度スイッチの切り替え

お知らせ

オートスタンバイ／感度スイッチを切り替えるときは、必ず主電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

「低」：オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、オートスタンバイ／感度スイッチは「低」の位置で使用します。

「高」：電源の入／切が切り替わりにくい場合は、「高」に設定します。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の低音域出力レベル(LFE LEVEL)を少し上げます。

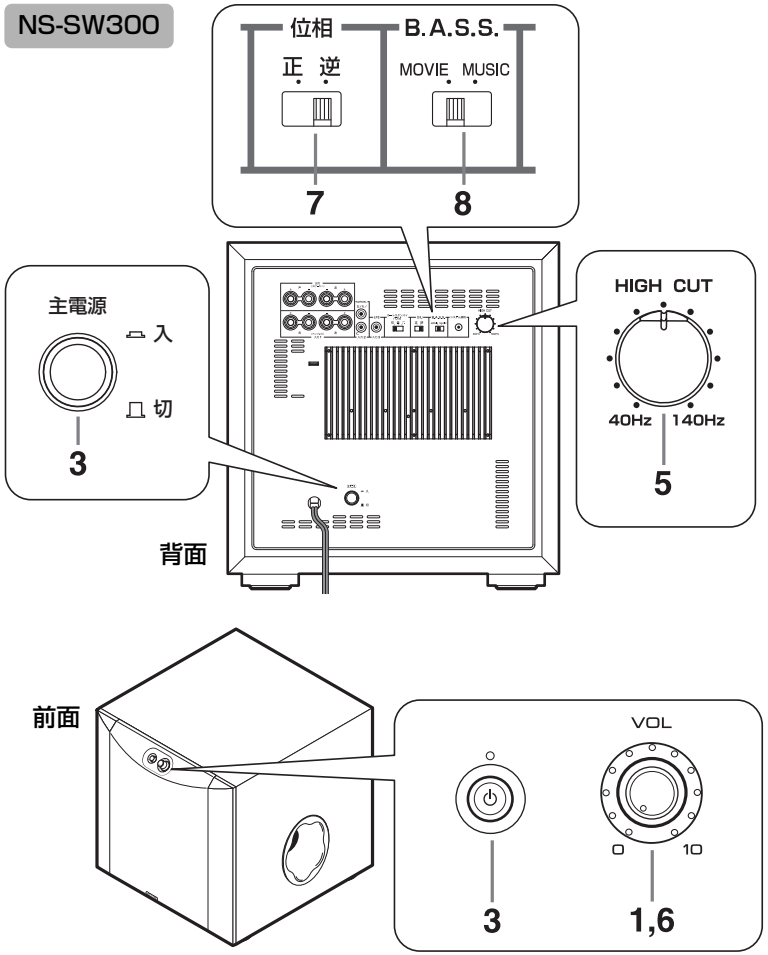
「切」：使用する環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がアンプからの入力信号を感知しなくても機能することがあります。そのようなときは、オートスタンバイ／感度スイッチを「切」にして、主電源スイッチでオン／オフを切り替えてください。

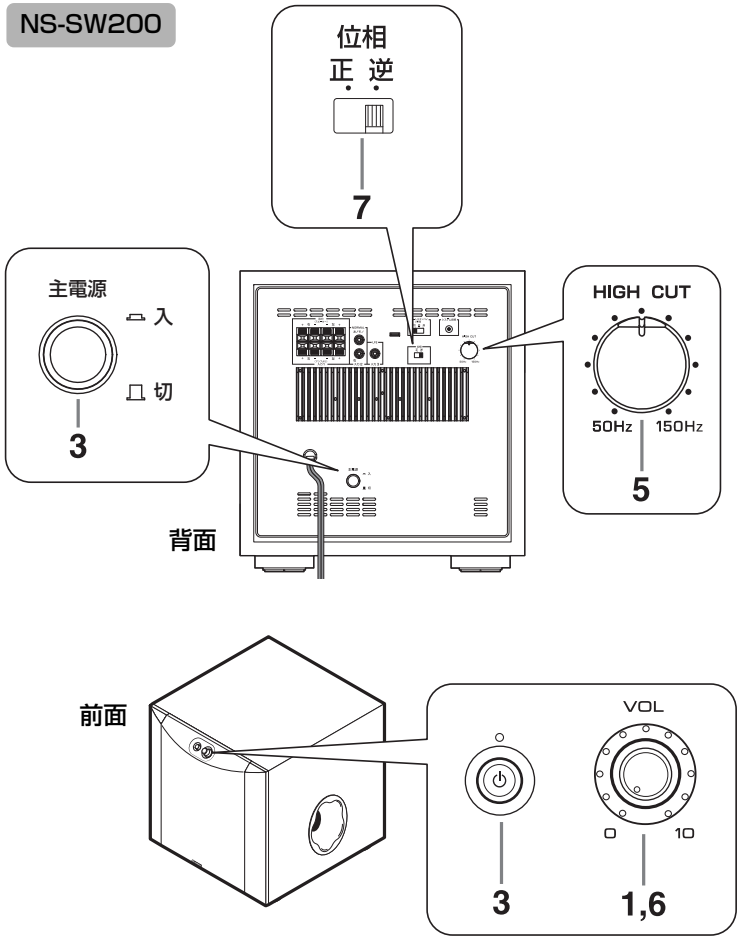
お知らせ

- 本機がオートスタンバイの状態でも本機はまだ通電状態にあり、微量の電力を使用しています。
- 長期間本機を使用しない場合は、本機背面の主電源スイッチを「切」にするか、または電源プラグをコンセントから抜いてください。

音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー (フロント) と本機の音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。下記の手順に従って調節してください。組み合わせるアンプ等にサブウーファーに関する設定がある場合は、そちらに従って設定してください。





音量バランスの調節

1. 本機の音量 (VOLUME) を最小 (0) にします。

2. 先に各接続機器の電源をオンにします。
システム接続をしているときは、接続した機器の電源をオンにしてください。

3. 本機の主電源スイッチが「入」になっていることを確認してから STANDBY/ON スイッチを押して本機の電源を入れます。
* インジケーターが緑色に点灯します。

4. 低音を含んでいるソースを再生し、フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。
通常お聴きになる音量にします。
(トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。)

5. HIGH CUT（ハイカット）ツマミで、カットする周波数を調節します。
フロントスピーカーの最低再生周波数 (再生可能な最も低い周波数) のやや高めに合わせてください。
* フロントスピーカーの最低再生周波数は、そのスピーカーの取扱説明書で調べてください。
* 入力 3 LFE 端子から入力した信号には、ハイカット周波数ツマミの効果はかかりません。(☞ 11 ページ)

6. 本機の音量 (VOLUME) を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスをとります。本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

7. 自然な (好みの) 位相となるように本機背面の位相スイッチを切り替えます。

8. 再生するソースに合わせて映画「MOVIE」か音楽「MUSIC」に設定します。
(NS-SW300 のみ)

MOVIE：
映画等のソースにて、より迫力のある再生音を楽しむために効果音を補強する機能です。(より厚く深い音になります。)

MUSIC：
通常の音楽ソースにて、不必要な低音域をカットし、よりクリアな音質を楽しむための機能です。(軽やかで、よりメロディーラインがくっきりとした音になります。)

お知らせ
一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。ただし、フロントスピーカーをかえた場合は、もう一度この調節を行ってください。

位相スイッチについて

位相スイッチは、フロントスピーカーに対して、本機を正相 (正) につなぐか逆相 (逆) につなぐかを切り替えるスイッチです。

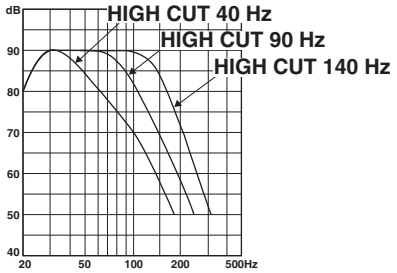
切り替えることによって、音の雰囲気が変わることがあります。あくまでも聴感的ですが、正相でつなぐか逆相につなぐかによって、低音ばかりでなく、全帯域にわたって音の拡がりやしまりが変化し、音場感に影響を与えます。フロントスピーカーの種類 (密閉型かバスレフ型) や設置状況によって音の拡がりやしまりがそれぞれ異なりますので、セッティングの際に、正相／逆相の両方を試聴してみて最も自然な再生音になる方を選んでください。

注意
アンプのトーンコントロール (BASS、TREBLE など) やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている 20Hz ～ 50Hz のサイン波や特殊な音 (電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など) を連続して大出力で入力することは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた「バタ付き」現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

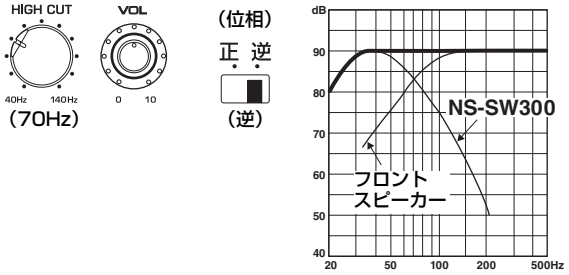
本機の周波数特性と調整例

カットする周波数、音量、位相の調節は、組み合わせるスピーカーや設置状態、リスニングポジション、再生するソース、音量バランスなどの条件によって異なります。下記は、口径 10 ～ 13cm または 20 ～ 25cm のスピーカーシステムと本機を組み合わせた場合の総合周波数特性、そしてそのときの各ツマミの調節位置の一例です。スピーカーシステムの低域特性は、口径の大きさ以外の要素によっても異なりますので、あくまでも参考としてお手持ちのスピーカーシステムとの調節を行ってください。

NS-SW300

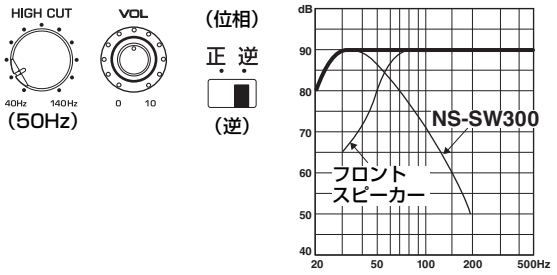


■ 口径 10 ～ 13cm スピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例（HIGH CUT 70Hz に設定）



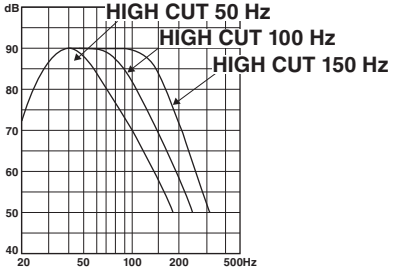
周波数特性イメージ *

■ 口径 20 ～ 25cm スピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例（HIGH CUT 50Hz に設定）

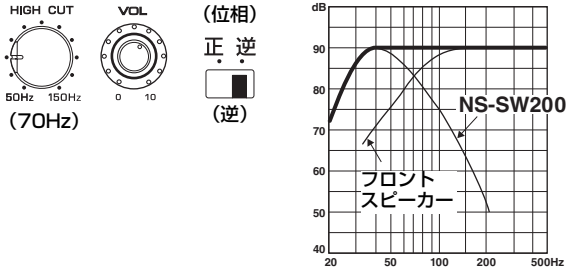


周波数特性イメージ *

NS-SW200

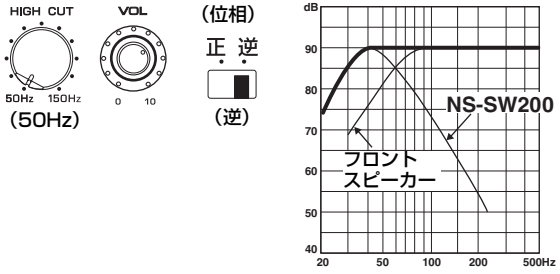


■ 口径 10 ～ 13cm スピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例（HIGH CUT 70Hz に設定）



周波数特性イメージ *

■ 口径 20 ～ 25cm スピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例（HIGH CUT 50Hz に設定）



周波数特性イメージ *

* 実際の周波数特性を厳密に表したものではありません。

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策
STANDBY/ON スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	本機の主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
	システム接続された機器の電源が「オフ」になっている。	システム接続された機器の電源を「オン」にしてください。
本機が操作を受け付けない。	電気ショック（落雷、過渡の静電気など）や電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	主電源スイッチを、一端「切」にし、再度「入」にしてください。
システム接続しているとき自動的にパワー・オンしない。	システム接続ケーブルが正しく接続されていない、または接続が不完全。	システム接続ケーブルを正しく接続してください。
	主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
音が出ない。	本機の VOLUME が最小 (0) になっている。	VOLUME を右に回して音量を上げてください。
	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。

症状	原因	対策
低音が出ない、または小さい。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	フェーズ (位相) 極性の選択が適切でない。	位相スイッチで極性を切り換えてください。
	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。 または、HIGH CUT ツマミを右に回して設定値を上げてください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置または設置角度を変えてみてください。
	アンプ側の設定により低音域の入力信号が無い	アンプ側の設定を変更する。
自動的に音量が下がったり、電源が切れたりする。	以下の原因で、本体の温度が異常に上昇している。 • 大音量で連続的に使用している。 • 温度が高い場所で使用している。 • 通気性の悪いところに設置して使用している。	• 音量を下げてご使用ください。症状が改善されない場合は、一度電源を切り、本体の温度が下がるまで待ってから、再度電源を入れてください。 • 直射日光の当たる場所や温度が異常に高くなる場所 (暖房機のそばなど) には設置しないでください。 • 電源を切り、本機の温度が十分さがったら、通気性のよいところに設置し、再度電源を入れてください。
STANDBY/ON スイッチを ON にしても、インジケーターが赤色点滅しているだけで電源が入らない。	内部故障のため保護回路がはたらいている。	電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに差し込んでください。症状が改善されない場合は、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策
ソースの再生が始まっても自動的に電源が入らない。	主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
	STANDBY/ON スイッチが「STANDBY」の状態になっている。	STANDBY/ON スイッチを「ON」の状態にしてください。
	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	オートスタンバイ／感度スイッチを「高」にして、アンプからの出力レベルを上げてください。
	アンプ側の設定により低音域の入力信号が無い。	アンプ側の設定を変更する。
ソースの再生が終わっても自動的にスタンバイ状態にならない。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	サブウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーケーブルを置く位置を変えてみてください。 オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的にスタンバイ状態になってしまう。	アンプからの入力信号が小さすぎる。	オートスタンバイ／感度スイッチを「高」にして、アンプからの出力レベルを上げてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的に電源が入ってしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	サブウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーケーブルを置く位置を変えてみてください。 オートスタンバイ／感度スイッチが「高」になっている場合は「低」にしてください。またはオートスタンバイ／感度スイッチを「切」にしてみてください。
ポートの中に物が入ってしまった。	故障の原因となるので無理に物を取らない。	お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

仕様

NS-SW300

型式 ..... アドバンスド･ヤマハ･アクティブ･サーボ･テクノロジーⅡ方式
スピーカーユニット ..... 25cm コーン防磁型
アンプ出力 (100Hz、5Ω、10%THD) 250W
再生周波数帯域 ..... 20Hz ～ 160Hz
電源 / 電圧 ..... AC100V、50/60Hz
消費電力 80W
待機時消費電力 ..... 0.3W 以下
寸法 (幅)×(高さ)×(奥行き) ..... 350mm × 366mm × 420mm
質量 18.0kg

NS-SW200

型式 ..... アドバンスド･ヤマハ･アクティブ･サーボ･テクノロジーⅡ方式
スピーカーユニット ..... 20cm コーン防磁型
アンプ出力 (100Hz、5Ω、10%THD) 130W
再生周波数帯域 ..... 28Hz ～ 200Hz
電源 / 電圧 ..... AC100V、50/60Hz
消費電力 55W
待機時消費電力 ..... 0.3W 以下
寸法 (幅)×(高さ)×(奥行き) ..... 290mm × 306mm × 351mm
質量 11.2kg

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） **0570-011-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

https://jp.yamaha.com/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） **0570-012-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site
https://www.yamaha.com/

Yamaha Downloads
https://download.yamaha.com/

Manual Development Group
© 2013 Yamaha Corporation

2020 年 11 月発行 IPEI-C0

VDU7510